



令和7年度 SSH 研究開発実施報告書 巻頭言

兵庫県立龍野高等学校

校長 駒田 勝

本校のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業は、平成25年度に文部科学省から指定を受けて以来、13年目を数え、第Ⅲ期3年目を迎えています。これも多くの皆さま方のお力添えあつてのことと深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、本校の理数教育の歴史は古く、昭和39年1月に本校職員によって作成された「物理実験書」の序文には、「物理学は、自然現象の上に成り立つ学問であつて、空論の中に生み出されたものではない。よつて、実験と観察により、その神髄を会得するべきである。量の上の水練の愚を嘲笑うべし。本校においては、この原則に立脚して、実験中心的物理教育を実施する」とあります。この経験を重んじる理科教育の考えは、本校の探究活動を支える根幹として、今も脈々と受け継がれています。現在では、この精神を踏まえつつ、先進的な科学技術や、理科、数学教育等を通して、生徒の科学的な発想力や思考力などを培い、兵庫県や日本はもとより、世界で活躍できるサイエンスリーダーの育成に向け、生徒の個性と能力を伸ばす教育を展開しています。

また、令和7年度の取組は本冊子記載のとおりですが、あえて3点取り上げるならば、①「総合自然科学科」の探究活動を後追いする形で進めてきた「普通科」の探究活動も深みを増してきたことを踏まえ、2月実施の「生徒研究発表会」を同一開催に改めたこと。加えて、わずか1本でしたが、目標としてきた普通科の生徒による学会での研究発表が行えたこと。②国内大会での発表が評価され、アジア大会出場権を獲得した2年生の國武 明日香さんが、マレーシアに赴き、研究発表を行ったこと。③国公立大学学校推薦型選抜・総合型選抜(共通テストなし)において、受験者37名に対して合格者25名と、その合格率が67.6%にも達したこと。が挙げられます。因みに、過去3年間の合格率は、令和6年度入試26.8%、令和7年度入試34.4%、令和8年度入試で67.6%と増加しており、その背景にはこれまで積み上げてきた探究活動の成果があるものと考えています。

なお、本校の第Ⅲ期SSH事業は令和9年度をもって終了します。今後発表予定の「中間評価」の結果も踏まえ、本校の強みを生かしつつ令和9年度の次期申請に向け、準備を進めていきたいと考えています。本冊子を是非ご一読いただき、本事業の取組のさらなる深化・充実に向け、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

結びに、日頃よりご支援・ご指導を賜っております文部科学省、科学技術振興機構及び兵庫県教育委員会の皆さま、そして本校SSH運営指導委員の皆さまをはじめとするすべての関係者の皆さまに心から感謝申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。